

Title	<記事>8.台風の被災と復旧について
Author(s)	
Citation	瀬戸臨海実験所年報 = Annual report of the Seto Marine Biological Laboratory (1999), 12: 14-15
Issue Date	1999-12-25
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/178963">http://hdl.handle.net/2433/178963</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

## 8. 台風の被災と復旧について

1998年9月22日に和歌山県御坊市付近に上陸した台風7号によって、白浜町では風速50m/sをはるかに超える強風が吹き荒れ、実験所は甚大な被害を受けた。

主な被害は以下の通りであった。

- 1) ウィンチ室（木造） 全壊
- 2) 工作室（木造） 半壊
- 3) 特別研究室（木造） 半壊
- 4) 研究棟(RC) 2階の11室中7室の窓ガラス13枚破損；それに伴って、室内の物品の散逸、海水の浸水、砂粒の堆積などの事態となり、研究機器多数が破損；屋上施設破損
- 5) 水族館(RC) 鉄製扉破損；窓ガラスおよび温室ガラス破損；屋上の防水シートがはがれ、それに伴って、浸水
- 6) 宿泊棟(RC) ガラス破損；それに伴って浸水；屋根破損；ソーラー温水システムなどの屋上施設破損
- 7) 官舎(木造) 屋根破損；ガラス破損
- 8) 車庫（プレハブ） シャッター破損
- 9) トラック 前面ガラス破損；電機系統浸水で異常
- 10) 構内の植木多数の倒木や枝折れ

等であった。

その他に駐車中の職員の車にも被害がでた。このような状況のなかでケガ人などが出なかったのは奇跡的で、不幸中の幸いであった。当日は12時頃から強風のため停電し、停電が復旧したのは翌日の15時頃であった。停電復旧後も、建物内の海水の浸水がひどいため、漏電の危険があり、一部しか通電できなかったため、昼間しか作業ができず、復旧に手間取った。

幸い、上記の被害の大部分は理学部および本部事務局の尽力のおかげで、災害復旧費に基づく復旧が認められ、年度末までに建物はほとんど原状に復帰した他、設備関係もおおむね整い再び研究に邁進できる環境が戻っている。特に、京都大学理学研究科動物学教室・数学教室・図書室、京都大学生態学研究センター、東京大学海洋研究所海洋生物生態部門、東京大学大学院理学系研究科地質学教室を始めとする多数の研究室から、多数の研究機材の援助を賜わり、これなくしては、現在までの復旧はあり得なかった。紙面を借りて、援助いただいた各機関・個人の方々に厚く御礼申し上げます。



台風7号により半壊した工作室。



復旧した工作室。